



平成灯台守

2022. 6 月号

発行/御前埼灯台を守る会

4年ぶりに屋外イベント

「2022 灯台まつり」が御前埼灯台着工 150 年と国の重要文化財指定を記念して、5 月 1 日から 5 日までの 5 日間開催されました。



屋外イベントは灯台前広場整備工事やコロナ禍で 4 年ぶりの開催となり、この日を待ち望んだ市民グループのダンスや演奏が新装なった広場で思い切り行われました。

今年常連の御前埼小 6 年児童、なぶら太鼓保存会、ドリーム・メイト、JA ハイナン珍どん隊に加え、初参加のうめたちあき&ラメール&初めてのコーラス、口笛、ハーモニカ演奏等 8 グループ 85 人が灯台まつりを盛り上げてくれました。

また、灯台資料館は、ここ 3 年掛かりで製作してきたパネルを展示し、御前埼灯台の歴史や魅力、灯台守の仕事、全国の灯台等を紹介しました。5 日間の資料館入館者



数は 1,762 人。初日の 1 日と 2 日が降雨や強風のため昼過ぎに閉館となりましたが、3 日と 4 日は 500 人越えて、県内外の家族連れ等が訪れました。

みんなの協力で展示物充実

灯台を守る会が運営する資料館は、写真や資料を主体とした展示で、他所の資料館のように昔灯台で使っていた機械装置や道具等の“現物”が無いと魅力に欠け、物足りなさを感じていました。

しかし、これは、会員や協力者から提供された手作りの“灯台作品”によってカバーされ、訪れる人から、その精巧さや出来映えに感嘆の声をいただいています。



提供された展示物には、灯台建設時に外国の技術者からプレゼントされたとされる双眼鏡やフォーク、浄水器、ジオラマや 3D プリンターで製作された御前埼灯台、ペーパークラフト灯台、日本地図に LED 電球を埋込んだ「全国の灯台 50 選」パネル、「喜びも悲しみも幾歳月」映画看板、御前埼灯台を描いた絵画や風景写真、御前埼海岸で採取した貝殻を使った貝細工、村松梢風著の小説「燈台」、マリンベル（号鐘）、手提げランプ、カツオ船で使われていた大型双眼鏡等があります。 by masatoshi